

ナガバノイシモチソウ 豊橋の自生地 19日観察会



豊橋で自生している赤い花のナガバノイシモチソウ。豊橋市佐藤町の幸公園で

食虫植物ナガバノイシモチソウの観察会が十九日、市佐藤町の幸公園で開かれ、赤い花のナガバノイシモチソウは豊橋市と豊明市の自生地として知られる豊橋

だけで確認されている日本固有種。観察会当日は、二千輪ほどが咲きそつだとい

う。ナガバノイシモチソウは茎のように細長い葉に生えた腺毛から出る粘液で小虫を捕らえたり、虫を巻き込むように葉を折り曲げたりして捕食する食虫植物。花は通常白く、赤い花のタイプは愛知教育大の研究

グループが日本固有種であることを突き止め、二〇一三年に発表している。豊橋市の自生地では例年、六月下旬～十月下旬の午前中に開花する。

市教委などは一九九〇年代からナガバノイシモチソウの保全活動をしてきたが、二〇一二年に積極的に人の手を加えて整理する方法を導入。ナガバノイシモ

チソウは日陰だと枯れやすいため、周囲の木を伐採してきた。日当たりがよくなったことで、自生地の地中で眠っていた「埋土種子」が発芽。一二年には三百株

だった個体数が今年は一万余り超にまで急増している。観察会は市文化財センター主催で、午前九時半から。集合場所は豊橋市佐藤

町の幸公園北側駐車場。市文化財センター110532(56)6060
(星野桃代)